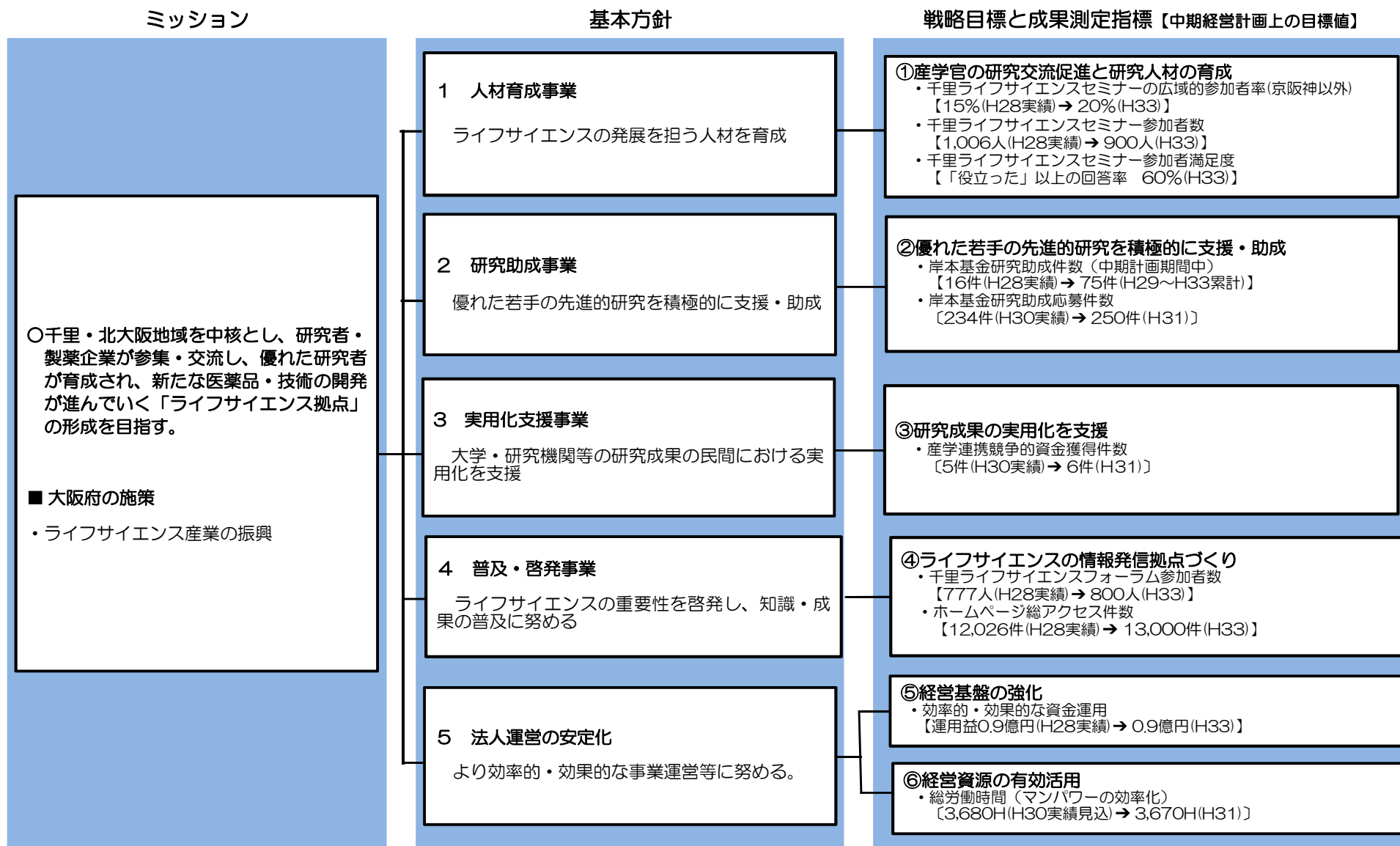


法人名	公益財団法人千里ライフサイエンス振興財団
作成（所管課）	商工労働部成長産業振興室ライフサイエンス産業課

○ 経営目標設定の考え方



○ H30年度の経営目標達成状況及びH31年度目標設定表

I. 最重点目標(成果測定指標)											
戦略目標	成果測定指標	新規	単位	ウエイト (H30)	H29実績	H30目標	H31目標	ウエイト (H31)	中期経営計画 (H29～H33)		H31目標設定の考え方 (数値の根拠) ※累積数値による目標設定の場合は、その理由も記載
						実績[見込]			H31目標	最終年度目標	
① 産学官の研究交流促進と研究人材の育成	セミナーの広域的参加者率 (京阪神以外からの参加者数/全参加者数)		%	25	21	20	20	25	-	20	中期経営計画のH33目標値 ・旬のテーマを厳選し、全国の第一線の研究者を招聘した魅力あるセミナーを実施することにより、京阪神以外の広域的参加者について20%の安定的参加者率を確保する。
						20					
	セミナーの参加者数	人	5	846	900	↓900	5	900	900	中期経営計画のH31目標値 ・第一線の専門家研究者を講師に招き、先端的な研究をテーマに最新の研究成果・動向等を紹介・発表することにより、より魅力的なセミナーとしていくとともに、積極的PRを通じて参加者数の安定的確保に努める。	
					918						
法人経営者の考え方(取組姿勢・決意)											具体的活動事項
最重点とする理由、 経営上の位置付け	<p>○財団は設立当初より、ライフサイエンス分野の発展を担う創造性・独創性豊かな産・学・官の研究人材の育成・質的向上を支援する事業を特に重要な事業だと考えている。</p> <p>○前計画(H24～H28)の実績を見ても千里ライフサイエンスセミナーや新通塾の参加者満足度調査ともに一定の評価が確立してきた。そこで千里の地から全国への情報発信を狙いとし、旬のテーマを選び全国の第一線の研究者を招いているセミナーの広域的参加者率(京阪神以外)を最重点目標としたい。</p> <p>○この場での触発を通じ、新たなイノベーションを生み出す若手研究人材の裾野を広げていくことこそが、財団の設立精神である「知の交流拠点」を実現したものであることから、産学官の研究交流促進と研究人材の育成を、引き続き最重点目標と位置づけた。</p>										
最重点目標達成のための 組織の課題、改善点	<p>○企画委員会で各委員(アカデミア・企業の21名)から旬のテーマ提案を募り、協議の上、毎年5テーマを選定し、これらのテーマに関する日本を代表する研究者をコーディネーター候補に選定。当該コーディネーターに、発表者選定を委任する運営を確立し、魅力あるセミナーの企画を行っている。</p> <p>○今後も、積極的な広報活動や、新鮮でエキサイティングなテーマ設定、当日の意見交換の場を確保するなどにより、参加者及び満足度の安定的な確保を図るとともに、全国的なライフサイエンスの拠点として広く認知され、より幅広い人材の交流がなされるよう、取り組んでいく。</p>										
活動方針	○事業の企画等を検討する企画委員会において、上記を踏まえた十分な検討を行い魅力ある旬のテーマ設定やコーディネーター・講師の選定を行う。										
	○セミナーの個別テーマについては、企画委員会で十分協議し、各テーマとコーディネーターを具体的に選抜。										
	○北海道から九州まで各大学、研究機関の第一線研究者から選抜し、全国からの参加者を募っている。また、若手研究者からの発表も可能となるよう、発表時間(短時間)も工夫している。										
	○京阪神以外のPRについては、関係する学会誌・業界専門誌及び各ホームページなどへの無料掲載等により周知・広報に努めている。										

II. 設立目的と事業内容の適合性(事業効果、業績、CS)

戦略目標	成果測定指標	新規	単位	ウエイト (H30)	H29実績	H30目標	H31目標	ウエイト (H31)	中期経営計画 (H29～H33)		H31目標設定の考え方 (数値の根拠) ※累積数値による目標設定 の場合は、その理由も記載	戦略目標達成のための活動事項	
						実績[見込]			H31目標	H31目標			最終年度目標
① 産学官の研究交流促進と研究人材の育成	セミナー参加者満足度 「大いに役立った」+「役立った」/全回答 （「大いに役立った」+「役立った」+「ふつう」 +「役に立たなかった」）		%	10	87	80	↓ 88	10	-	60	H29、H30の2か年実績の 平均値を目標値に設定	企画委員会での議論を踏まえ、コーディネーターと協議を重ね、魅力あるテーマ、講師の選定を進める。	
						89							
② 優れた若手の先進的研究を積極的に支援・助成	岸本基金研究助成件数		件	5	15	15	15	5	15	累計75	中期経営計画のH31目標 値・寄付額30,000千円、1人 当たり助成額2,000千円	応募件数の増大に伴い、審査員の負担軽減を図りつつ厳正な審査を行い、採択レベルの向上を図る。	
						15							
	岸本基金研究助成応募件数		件	10	271	275	250	10	-	-	過去3か年(H28～H30)の 実績の平均値を目標値に 設定	財団HPで応募要領を開示するとともに、自然科学分野に関する学部・大学院を有する主要大学の学部長・研究科長に応募要領を送付し、学内での案内を依頼する。	
						× 234							
③ 研究成果の実用化を支援	「SENRIの会」での研究発表件数		件	10	8	7	-	-	7	7	-	-	
						-							
	「SENRIの会」への製薬企業の参加者数		人	5	22	20	-	-	-	20	-	-	
	産学連携競争的資金獲得件数		件	5	-	5	6	15	-	-	日本医療研究開発機構 (AMED)等の競争的資金 獲得・活用に向け、H30実 績を上回る目標値を設定	AMED等の公募情報について全国各地で説明会を開催するとともに、財団コーディネーターが獲得に向けて研究者やベンチャー企業等の相談に適宜サポートを行う。	
						5							
④ ライフサイエンスの情報発信拠点づくり	千里ライフサイエンスフォーラム参加者数		人	5	816	800	740	10	-	800	中期経営計画の到達目標 (年12回)から年11回開催 分の参加者数を上回る目 標値に設定(800÷12回× 11回=740)	引き続き新規のクラブ会員獲得を図るとともに新設で魅力的な講演テーマ、講師の選定を行い、積極的に参加者の募集を行う。	
						× 690							
	ホームページ総アクセス件数(月平均)		件	5	11,846	12,200	12,000	5	-	13,000	H29、H30実績を上回る H29目標値と同じ数値を設定	財団ホームページにセミナー講演内容の動画を早期に掲載するとともに、新たに市民公開講座の動画配信等を検討し、コンテンツの充実や財団HPの無料リンク掲載拡大によるアクセス数の増を図る。	
						× 10,491							

法人名	公益財団法人千里ライフサイエンス振興財団
-----	----------------------

Ⅲ. 健全性・採算性(財務)、コスト抑制と経営資源の有効活用・自立性の向上(効率性)

戦略目標	成果測定指標	新規	単位	ウエイト (H30)	H29実績	H30目標	H31目標	ウエイト (H31)	中期経営計画 (H29～H33)		H31目標設定の考え方 (数値の根拠) ※累積数値による目標設定 の場合は、その理由も記載	戦略目標達成のための活動事項
						実績[見込]			H31目標	H31目標		
⑤ 経営基盤の強化	効率的・効果的な資金運用		億円	10	1	0.9 1	↓0.9	10	0.9	0.9	中期経営計画のH31目標値 ・長期安定を基本に効率的・効果的な資金運用に努め、毎年約0.9億円の運用益の確保を目指す。	資産運用規程に基づき、長期的な観点からのより効率的・効果的な資金運用を行う。
⑥ 経営資源の有効活用	総労働時間(マンパワーの効率化)		時間	5	7,530	7,520 ※2名へ縮減後 3,760 [3,680]	3,670	5	-	-	組織体制見直しにより対象職員が半減(4人⇒2人)し、時間数が大きく減。総労働時間のさらなる縮減を目指す。	事務事業の一層の効率化等を行い、常勤職員(役員・管理職、製薬企業出向者を除く)の総労働時間数の縮減をめざす。

【凡例】

- ・☆はH31からの新規項目
- ・×は目標値未達成
- ・↓は前年度実績比マイナスの目標値
- ・[]内の数値は、参考として記入した実績見込値
- ・()内の数値は、当該年度の経営目標として設定していないため、参考として記入した実績値

CS調査の実施概要

○ 平成30年度の実施結果

調査内容	実施方法	アンケート等対象者	対象者数	実施時期
セミナー参加者満足度	アンケート調査	セミナー参加者	918	年5回開催

実施結果の主な内容	実施結果を踏まえた取組	平成30年度にめざす状態
セミナー開催時に、参加者に対しセミナー内容に関するCS調査を行った結果、「大いに役立った」+「役立った」が89%（（「大いに役立った」+「役立った」）/全回答（「大いに役立った」+「役立った」+「ふつう」+「役に立たなかった」）であった。	企画委員会での議論を踏まえ、コーディネーターと協議を重ね、引き続き魅力ある旬のテーマ、講師の選定を進め、参加者の今後に役立つセミナーを維持していく。	中期経営計画（H29～H33）により、H29から新規に設定した目標であり、安定的なセミナー参加者の満足度（「役に立った」以上）を確保する。

○ 平成31年度の実施方針

調査内容	実施方法	アンケート等対象者	対象者数	実施時期
セミナー参加者満足度	アンケート調査	セミナー参加者	900	年5回開催

・CSに関する平成31年度目標（再掲）【※ 成果測定指標の場合】

戦略目標	成果測定指標	単位	H29実績	H30目標	H31目標値	CS調査の数値を戦略目標に設定した理由及び目標値の根拠
				実績（見込）		
産学官の研究交流促進と研究人材の育成	セミナー参加者満足度 「大いに役立った」+「役立った」/ 全回答（「大いに役立った」+「役 立った」+「ふつう」+「役に立たなかつ た」）	%	87	80	88	（設定した理由） セミナーは、当法人の設立目的を実現していく上で重要な事業であり、その「広域的参加者率」を最重点目標としているが、参加者数だけでなく、参加者がセミナーの内容に満足したかどうか、即ち、「大いに役立った」「役立った」と感じてこそ、研究の交流や研究人材の育成といった効果が生まれるものである。そのため、引き続き「大いに役立った」「役立った」を具体的な満足度の指標とする。
				89		（何をめざすのか） 高い満足度を安定的に確保していく。
						（目標値の根拠） H29、H30の結果を踏まえ、引き続き、高い満足度を安定的に確保できるよう、2か年実績の平均値である88%を目標値に設定する。

■ 目標値未達成の要因について

〔1〕

H30年度の 成果測定指標	単位	H30年度の目標値	H30年度の 実績値〔見込値〕
岸本基金研究助成応募件数	件	275	234

未達成の要因と分析

・概ね一貫して増加してきた応募件数が、平成30年度は前年度より14%減となった。

・これは、全国的に博士課程への入学者が減少しており、ライフサイエンスの若手研究者、即ち、応募資格者（40歳未満）の絶対数が減っていることが背景にあることも一因と考えられるが、現時点で原因は特定できておらず、類似の助成制度の新設の有無等について確認をすすめる。

今後の改善方策

・応募論文の水準を確保するには一定数の応募件数が必要であることから、減少傾向が加速することのないよう、引き続き、HPや学会誌等への掲載を通じた周知を行っていく。

・また、従来、関西の主な大学の医学部、薬学部及び大学院の医薬系研究科を対象に、その学部長、研究科長に応募要領を送付し、推薦依頼を行ってきたが、ライフサイエンスに関する研究を行っている理学部、工学部系研究科を精査し、新たに推薦依頼の案内を送付することにより、本研究助成の周知と応募を促す。

■ 目標値未達成の要因について

〔2〕

H30年度の 成果測定指標	単位	H30年度の目標値	H30年度の 実績値〔見込値〕
「SENRIの会」での研究 発表件数	件	7	—

未達成の要因と分析	<p>・「SENRIの会」については、経営目標を策定した30年度当初の時点では、例年どおり実施することを予定していたが、30年8月に開催した企画委員会（ライフサイエンスにかかる大学、研究機関、製薬会社等の第一線の研究者で構成）において、</p> <p>✓「SENRIの会」は岸本基金研究助成を授与された若手研究者と企業研究者が直接情報交換を行い、相互理解を深め実用化への共同研究を進めるきっかけづくりとなることを目指したものであったが、過去8回の開催で具体的に共同研究に至ったものがない。</p> <p>✓岸本基金研究助成が基礎的な研究を対象とし、実用化に繋がる研究をターゲットにしていないことによる企業側とのミスマッチは避けがたい。</p> <p>などの指摘があり、事業を継続する必要性について議論が及んだところ。</p> <p>・改善の工夫も難しく、年度途中ではあるが30年度からの事業終了を決定したため、実績がない結果となった。</p>
今後の改善方策	<p>毎年の事業計画や経営目標については、前年度の事業の状況を十分評価した上で策定するよう努める。</p>

〔3〕

H30年度の 成果測定指標	単位	H30年度の目標値	H30年度の 実績値〔見込値〕
「SENRIの会」への製薬 企業の参加者数	人	20	—

未達成の要因と分析	上記〔2〕に同じ
今後の改善方策	上記〔2〕に同じ

■ 目標値未達成の要因について

〔4〕

H30年度の 成果測定指標	単位	H30年度の目標値	H30年度の 実績値〔見込値〕
千里ライフサイエンスフォーラム参加者数	人	800	690

未達成の要因と分析	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度から8月を休会としたこと、また6月開催分が大阪北部地震により中止となったため、平成30年度はフォーラムの開催回数が従来の12回(毎月1回)から10回へと開催回数が2回少なくなり、参加者数は目標値より大きく減少した。 ・8月を休会にしたのは、盛夏の時期の開催による高齢参加者への体調面に配慮したものである。なお、目標設定時には8月休会は決定しておらず、従来どおりの年12回開催で目標値を設定した。 ・なお、平成30年度の参加者総数は目標に達しなかったものの、10回開催換算では1回当たりの参加者数(69人>67人=800人/12回)、総数(690人>670人=67人×10回)とも目標値を上回っている。
------------------	---

今後の改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、従来同様、魅力あるテーマ選定に工夫を凝らすとともに、フォーラム会員の増に向け、地域の医師会や薬剤師会等の医療関係団体、大学の医学部・薬学部同窓会の広報媒体を活用し、引き続き会員募集のPRに努める。
----------------	--

〔5〕

H30年度の 成果測定指標	単位	H30年度の目標値	H30年度の 実績値〔見込値〕
ホームページ総アクセス件数(月平均)	件	12,200	10,491

未達成の要因と分析	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度実績は、目標値より下回った(1,672件/月)が、これは前年度までHPに掲載していた実用化支援事業のセミナー、交流会等の募集案内が平成30年度からなくなったこと、従前よりセミナー講演の動画配信を断る講師が増えたことが要因と考えられる。
------------------	--

今後の改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・新たに「市民公開講座」の動画配信等魅力あるコンテンツの掲載を検討するとともに、時宜にかなった最新情報の発信に努め、ホームページのより一層の充実にも努める。 ・また、近畿経産局等公的団体に対し、当該HPのイベント情報ページにセミナー等の財団行事の掲載依頼を行うとともに、財団HPの無料リンク先の拡大に努め、メール会員の増を目指す。 ・セミナーの動画配信には講師との著作権の調整が不可欠であり、そのため配信に時間がかかったり、配信自体が許可されない場合があることから、セミナー開催後、より速やかに動画配信できるよう、引き続き講師との調整に努めるとともに、今後は動画配信のアップ情報についてもメール会員に速やかに配信することとする。
----------------	--

■ 成果測定指標変更（廃止）希望の理由について

（※大阪府から成果測定指標の変更を提示した場合は除く）

〔1〕

●変更前

H30年度の成果測定指標	単位	H30年度の目標値
「SENRIの会」での研究発表件数	件	7

●変更後

H31年度の成果測定指標	単位	H31年度の目標値
—	—	—

成果測定指標の変更（廃止）を希望する理由	<p>・「SENRIの会」は岸本基金研究助成を授与された若手研究者と企業研究者が直接情報交換を行い、相互理解を深め実用化への共同研究を進めるきっかけづくりとなることを目指したものであったが、過去8回の開催で具体的に共同研究に至ったものはなかった。</p> <p>・これは、岸本基金研究助成が基礎的な研究を対象とし、実用化に繋がる研究をターゲットにしていないことによる企業側とのミスマッチにより双方に不満が生じた結果と考えられる。</p> <p>・そのため、基礎研究から実用化への繋がりを企図した「SENRIの会」は、平成30年度の企画委員会の議論を経て、事業終了を決定したものであり、これに伴い、本成果測定指標は平成30年度に廃止せざるを得ないこととなった。</p>
-----------------------------	---

〔2〕

●変更前

H30年度の成果測定指標	単位	H30年度の目標値
「SENRIの会」への製薬企業の参加者数	人	20

●変更後

H31年度の成果測定指標	単位	H31年度の目標値
—	—	—

成果測定指標の変更（廃止）を希望する理由	上記〔1〕に同じ
-----------------------------	----------

■ 平成30年度実績比 マイナス（現状維持）目標の考え方について

〔1〕

成果測定指標	単位	H30年度の実績値〔見込値〕	H31年度の目標値
セミナーの広域的参加者率	%	20	20

マイナス（現状維持）目標の考え方	<p>・H30はセミナー5回のトータルでは19.6%の参加者率となり、集客力の高いセミナーとなるよう努めた中、辛うじて20%の目標値を達成することができたが、個々のセミナーでは16%～22%と差があり、セミナーのテーマによって広域的参加者率が変動している。</p> <p>・中期経営計画の最終年度目標である20%については、高い目標値と認識していること、また、こうした不確定要素があることから、当面は中期経営計画の最終年度目標値である20%を安定的に確保していくこととする。</p>
------------------	---

〔2〕

成果測定指標	単位	H30年度の実績値〔見込値〕	H31年度の目標値
セミナーの参加者数	人	918	900

マイナス（現状維持）目標の考え方	<p>・魅力あるセミナーの企画や積極的な広報に努めているものの、開催テーマにより個々のセミナーの参加者数が変動する（H30実績：140人～218人）ことは避けがたいこと、また、H30年度はH29年度よりも参加者数が増加したが、近年の参加者数の状況からは増加傾向にあるとはいいがたいことから、引き続き、中期経営計画のH31年度の目標値である900人を目標とする。</p> <p>【セミナー参加者数の状況】</p> <p>・H30年度：918名 ・H29年度：846名 ・H28年度：1,006名</p>
------------------	--

■ 平成30年度実績比 マイナス（現状維持）目標の考え方について

〔3〕

成果測定指標	単位	H30年度の実績値〔見込値〕	H31年度の目標値
セミナー参加者満足度 「大いに役立った」+「役立った」/ 全回答（「大いに役立った」+「役立った」+「ふつう」+「役に立たなかった」）	%	89	88

マイナス（現状維持）目標の考え方

・新たに採用したCS調査の実績を見ると、初年度(H29)全体では87%、次年度(H30)で89%という高い実績ではあるが、個別セミナーの実績では82%から94%までテーマによって満足度に大きく差が生じている。

・そのため、目標設定に際しては今暫く実績の推移を確認する必要があると考えているが、これまでの2か年の実績を踏まえ、引き続き、高い満足度を安定的に確保できるよう、2か年の平均値である88%を目標値とする。

〔4〕

成果測定指標	単位	H30年度の実績値〔見込値〕	H31年度の目標値
岸本基金研究助成件数	件	15	15

マイナス（現状維持）目標の考え方

・本助成事業の財源は寄付金30,000千円であり、1人当たり助成額2,000千円を踏まえ、15件（中期経営計画のH31目標値）とした。

・本助成事業については応募件数が非常に多い中、限られた時間の中で厳正に審査を行い、助成対象の質の確保に努めている。

・審査の負担が大きい中、15件を目標に掲げることで、財源となっている寄付金をすべて活用し、優れた若手の先進的研究を支援する。

■ 平成30年度実績比 マイナス（現状維持）目標の考え方について

〔5〕

成果測定指標	単位	H30年度の実績値〔見込値〕	H31年度の目標値
効率的・効果的な資金運用	億円	1	0.9

マイナス（現状維持）目標の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・財団は長期安定的な運営が可能となるよう、元本保証で金利が為替変動型の仕組債を資金運用で活用している。 ・この仕組債は円と米ドル、豪ドルとの為替水準により変動し、H30年度は前年度と同様に変動幅が小さく、安定的な運用が可能となった稀な年であった。 ・H31年度は米中の経済摩擦や米朝交渉の不透明さ、また世界経済の停滞等が見込まれ為替相場が大きく変動するおそれがあり、中期的にさらなる運用収入増を見込むのは困難であり、中期経営計画どおりの目標値とした。
------------------	---